

# 定期作況報告

(第4号 平成26年8月20日現在)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 上川農業試験場

## 1. 気象概況

7月下旬：最高気温は平年より0.7℃低く、最低気温も平年より0.5℃低かった。降水量は平年より79.6mm多く、平年対比286%であった。降水日数は平年より2日多かった。日照時間は平年より17.8時間多く、平年対比132%であった。夏日（最高気温25℃以上）は8日で、うち真夏日（最高気温30℃以上）は2日であった。

8月上旬：最高気温は平年より0.6℃低く、最低気温は平年より0.6℃高かった。降水量は平年より157.5mm多く、平年対比526%であった。降水日数は平年より3日多かった。日照時間は平年より4.2時間少なく、平年対比92%であった。夏日は8日、うち真夏日は4日であった。

8月中旬：最高気温は平年より1.3℃低く、最低気温も平年より0.5℃低かった。降水量は平年より27.6mm少なく、平年対比63%であった。降水日数は平年並みであった。日照時間は平年より2.2時間多く、平年対比105%であった。夏日は6日で、真夏日は無かった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	26.8	27.5	▲ 0.7	27.9	28.5	▲ 0.6	25.9	27.2	▲ 1.3	26.9	27.7	▲ 0.8
最低気温(℃)	16.3	16.8	▲ 0.5	19.0	18.4	0.6	16.9	17.4	▲ 0.5	17.4	17.5	▲ 0.1
平均気温(℃)	21.2	21.6	▲ 0.4	22.9	22.9	0.0	20.9	21.8	▲ 0.9	21.7	22.1	▲ 0.4
降水量(mm)	122.5	42.9	79.6	194.5	37.0	157.5	47.0	74.6	▲ 27.6	364.0	154.5	209.5
降水日数(日)	6	4	2	6	3	3	5	5	0	17	12	5
日照時間(hr)	74.2	56.4	17.8	50.4	54.6	▲ 4.2	46.3	44.1	2.2	170.9	155.1	15.8

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

## 1) 水 稲 : 並

5月20日現在作況 : 並

事由 : 播種は平年より1~2日遅い4月15日に行った。育苗期間中は、平年より高温多照で、出芽揃も良好で、苗の生育は進んだ。移植は平年より3日早い5月16日に行った。移植時の草丈は平年に比べ「きらら397」が1.1cm高く「ななつぼし」が0.6cm高く、「ゆめぴりか」が1.0cm低かった。主稈葉数および茎数はいずれも平年並で、第1葉鞘高は平年より0.8cm低く、地上部乾物重は平年に比べ「きらら397」と「ななつぼし」でそれぞれ0.29、0.23g重く、「ゆめぴりか」で1.11g軽かった。以上のように移植時の苗素質は平年並みであった。移植後2日間は極低温に経過し、植痛みがみられた。これらのことから、目下の作況は「並」である。

6月20日現在作況 : やや不良

事由 : 移植直後に低温による植痛みがあったが、5月末から6月第1週まで好天が続き、順調に回復した。しかし、6月第2週以降は降雨が続き、日照も少なかったことから、主稈葉数は平年に比べ0.5~0.6枚多いものの、草丈は「きらら397」「ゆめぴりか」でそれぞれ1.9、1.2cm高く、「ななつぼし」で2.4cm低く総じて平年並みで、m<sup>2</sup>あたりの茎数は10~37%少なかった。生育は進んでいるものの、生育量が不足していることから、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在作況 : 並

事由 : 6月下旬以降高温多照に推移したため、生育は進んだ。すなわち、幼穂形成期は「ななつぼし」「きらら397」で2日遅れた一方、「ゆめぴりか」で2日早く、平均で平年並みであったが、その後の止葉期は平年より1~3日早くなった。止葉葉数は平年より0.5~0.7枚多く、草丈は平年より2.1~4.5cm高かった。m<sup>2</sup>あたりの茎数は「ななつぼし」「ゆめぴりか」でそれぞれ6、9%多い一方、「きらら397」で5%少なかった。生育は2日程度早く、茎数も平年並みに確保されており、目下の作況は「並」である。

8月20日現在作況 : 並

事由 : 出穂期は平年より1~2日早かったが、穂揃い日数は2~4日長かった。稈長は2.0~6.6cm長いが、穂長は0.3~1.0cm短かった。m<sup>2</sup>あたり穂数は「きらら397」で8%少なかったが、「ななつぼし」「ゆめぴりか」でそれぞれ平年より6、7%多かった。m<sup>2</sup>あたり穂数は品種の平均でわずかに多い傾向があるが、穂長がやや短いことから、目下の作況は「並」である。

表2 8月20日の水稻の生育

項目	品種名 /年次	ななつぼし			きらら397			ゆめぴりか			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月日)	4.15	4.14	1	4.15	4.13	1	4.15	4.14	1	
	移植期 (月日)	5.16	5.19	△3	5.16	5.19	△3	5.16	5.19	△3	
	幼穂形成期 (月日)	6.24	6.22	2	6.26	6.24	2	6.22	6.24	△2	
	止葉期 (月日)	7.07	7.08	△1	7.09	7.11	△2	7.06	7.09	△3	
	出穂期 (月日)	7.19	7.20	△1	7.21	7.22	△1	7.18	7.20	△2	
	成熟期 (月日)		9.07			9.10			9.06		
	穂揃日数 (日)	11	7	4	9	7	2	10	8	2	
	登熟日数 (日)		49			50			48		
	生育日数 (日)		147			149			145		
移植時	草丈 (cm)	13.8	13.2	0.6	13.6	12.5	1.1	12.5	13.5	▲ 1.0	
	葉数 (枚)	4.2	4.0	0.2	4.4	4.1	0.3	4.5	4.3	0.2	
	茎数 (本)	1.8	1.7	0.1	2.1	1.9	0.2	2.2	2.0	0.2	
	第1葉鞘高 (cm)	1.8	2.6	▲ 0.8	1.8	2.6	▲ 0.8	1.7	2.5	▲ 0.8	
	地上部乾物重 (g/100本)	4.46	4.23	0.23	4.36	4.07	0.29	3.67	4.78	▲ 1.11	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.9	8.3	0.6	9.2	8.7	0.5	9.2	8.6	0.6
		7月20日	11.0	10.3	0.7	11.8	11.1	0.7	11.2	10.7	0.5
		止葉葉数	11.0	10.3	0.7	11.8	11.1	0.7	11.2	10.7	0.5
	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	6月20日	504	624	▲ 120	465	743	▲ 278	617	683	▲ 66
		7月20日	786	742	44	777	814	▲ 37	885	813	72
	草丈 (cm)	6月20日	38.5	40.9	▲ 2.4	36.7	34.8	1.9	39.1	37.9	1.2
7月20日		87.6	83.1	4.5	76.7	74.6	2.1	84.3	79.9	4.4	
成熟期	稈長 (cm)	73.9	67.3	6.6	66.3	61.8	4.5	67.1	65.1	2.0	
	穂長 (cm)	16.0	16.9	▲ 0.9	16.4	16.7	▲ 0.3	15.8	16.8	▲ 1.0	
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	723	680	43	685	744	▲ 59	795	746	49	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		49.6			42.0			42.7		
	m <sup>2</sup> あたり粒数 (×千)		33.8			31.1			31.7		
	稔実歩合 (%)		95.6			94.5			95.0		
	登熟歩合 (%)		89.6			86.0			86.2		
	籾摺歩合 (%)		81.9			81.4			79.1		
	屑米歩合 (%)		1.6			1.8			3.0		
	精玄米千粒重 (g)		22.5			23.3			23.0		
収量	葉重 (kg/10a)		633			596			622		
	精籾重 (kg/10a)		807			789			812		
	精玄米重 (kg/10a)		661			642			641		
	収量平年比 (%)		100			100			100		
	検査等級 (等)		1下			1下			1下		

注 1) 「きらら397」「ななつぼし」の平年値は前7カ年の中、平成20年(最豊年)、平成21年(最凶年)を除く5カ年の平均。「ゆめぴりか」の平年値は前6カ年中、平成21年(最凶年)を除く5カ年の平均。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗  
施肥量：成分量でm<sup>2</sup>あたり、床土 N 3.0g, P 7.2g, K 3.0g、置床 N 27.0g, P 34.0g, K 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m<sup>2</sup> (33.0cm×12.0cm)、3本植  
施肥量：成分量で10aあたり、N 8.0kg, P 9.7kg, K 6.9kg、堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

2) 秋まき小麦：やや良

平成25年

9月20日現在

平年より4日早い9月11日に播種を行った。出芽期は9月20日で平年より4日早い。

10月20日現在：平年並

事由：現在のところ、平年と比較して葉数がやや多く、生育は進んでいる。草丈は高いが、茎数はやや少ない。

平成26年

5月20日現在：平年並

事由：根雪始は平年より1日遅く、根雪終は平年より9日遅く、積雪期間は平年より8日長い146日となった。雪腐病発病度は平年並で、発生菌種は紅色雪腐病が主体であった。越冬前茎数は少なかったが、越冬茎歩合は平年より高く、現在の茎数は平年並である。根雪終が平年より遅かったが、4月下旬以降気温が平年より高く推移したため、現在の草丈はほぼ平年並である。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：やや不良

事由：5月下旬から6月上旬にかけて高温・干ばつ傾向で推移した。そのため生育が進み、出穂期は平年より3日早く、草丈は平年を下回っている。また、茎の無効分げつ化も進み、㎡当たり茎数は平年より少ない。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：やや不良

事由：6月下旬以降、気温は平年より高く、降雨は平年より少なく干ばつ気味であった。成熟期は平年より2日早い7月16日であったが、出穂期は平年より3日早かったため、登熟期間は平年より1日長かった。成熟期における穂長は平年並であったが、稈長は平年より短く、穂数は平年の85%であった。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

8月20日現在：やや良

事由：成熟期における穂数が平年を下回ったものの、子実の充実は良好であり、リットル重と千粒重は平年をやや上回り、子実重はやや多収となった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表3. 8月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		9.11	9.15	△ 4
出芽期 (月.日)		9.20	9.24	△ 4
出穂期 (月.日)		6.03	6.06	△ 3
成熟期 (月.日)		7.16	7.18	△ 2
越冬茎歩合 (%)		140.4	121.5	18.9
雪腐病発病度		12.5	10.1	2.4
葉数(枚)	平25年10月20日	5.1	4.4	0.7
草丈 (cm)	平25年10月20日	20.3	17.8	2.5
	平26年 5月20日	37.4	41.3	▲ 3.9
	平26年 6月20日	82.0	89.6	▲ 7.6
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	平25年10月20日	717	747	▲ 30
	平26年 5月20日	1341	1277	64
	平26年 6月20日	633	689	▲ 56
成 熟 期	稈長 (cm)	73	81	▲ 8
	穂長 (cm)	8.9	8.6	0.3
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	555	656	▲ 101
子実重 (kg/10a)		709	676	33
同上平年比 (%)		105	100	5
リットル重 (g)		812	799	13
千粒重 (g)		41.7	40.1	1.6
検査等級 (等)			2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年（収穫年度）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

3) 春まき小麦：やや良

5月20日現在：良

事由：融雪は遅れたがその後の天候が良好であったため、播種期は平年より2日早い4月18日であった。播種後、平年より気温が高く経過したことから、出芽期は平年より4日早い4月30日となった。出芽後も気温が高く経過したため生育は良好で、草丈、茎数は明らかに平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

6月20日現在：良

事由：5月下旬以降も引き続き高温・多照に経過したことから生育は良好で、出穂期は平年より7日早く、草丈およびm<sup>2</sup>当たり茎数ともに平年を上回った。

したがって、目下の作況は「良」である。

7月20日現在：やや不良

事由：6月下旬以降は高温干ばつ傾向で推移したため、茎の無効化が進んだ。穂長は平年並であるが、稈長は平年よりやや短く、穂数は平年の78%であった。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

8月20日現在：やや良

事由：成熟期は平年より6日早かったが、出穂期は平年より7日早かったため、登熟期間は平年より1日長かった。穂数が平年を下回ったことから低収が懸念されたが、子実重は平年を14%上回った。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表4. 8月20日の春まき小麦の生育

品 種 名		春よ恋		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	4.18	4.20	△ 2
出芽期	(月.日)	4.30	5.04	△ 4
出穂期	(月.日)	6.11	6.18	△ 7
成熟期	(月.日)	7.23	7.29	△ 6
草丈 (cm)	5月20日	25.7	19.5	6.2
	6月20日	93.9	75.6	18.3
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	5月20日	913	569	344
	6月20日	705	657	48
成 熟 期	稈長 (cm)	87	91	▲ 4
	穂長 (cm)	8.5	8.7	▲ 0.2
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	393	504	▲ 111
子実重	(kg/10a)	548	479	69
同上	平年比 (%)	114	100	14
リットル重	(g)		793	
千粒重	(g)		40.1	
検査等級	(等)		2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、24年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

4) 大 豆： やや不良

6月20日現在：良

事由：播種期は平年より7日早い5月15日であった。播種直後に十分な降水があったため、出芽揃いに大きな問題はなかったが、出芽期の平年との差は播種直後の著しい低温により3日に縮まった。出芽期前後は著しい高温・少雨に経過し、出芽直後の生育は緩慢であったが、6月9日以降の連続した降雨と少照により徒長気味に伸長が進み、主莖長、主莖節数とも平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

7月20日現在：平年並

事由：高温・多照により生育が早まり、開花期は平年より7日早い7月4日で、作況に「ユキホマレ」を供試した過去14年間で最も早かった。生育の早まりと少雨により莖長は抑制され、主莖長は平年より12.6cm短い。主莖節数は平年よりわずかに少なく、分枝数はやや少ない。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：やや不良

事由：7月第5半旬までの高温、干ばつにより主莖の伸長停止が早まり、主莖長は平年より18.3cm短い。分枝は平年より少なく、着莢数も平年より少ない。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表5 8月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.15	5.22	△ 7
出芽期	(月.日)	5.31	6.03	△ 3
開花期	(月.日)	7.04	7.11	△ 7
成熟期	(月.日)		9.21	
主茎長 (cm)	6月20日	18.4	13.3	5.1
	7月20日	51.1	63.7	▲ 12.6
	8月20日	51.5	69.8	▲ 18.3
	9月20日 成熟期		70.1	
主茎 節数 (節)	6月20日	5.4	4.6	0.8
	7月20日	10.1	10.4	▲ 0.3
	8月20日	10.4	10.5	▲ 0.1
	9月20日 成熟期		10.5	
分枝数 (本/株)	7月20日	6.5	7.1	▲ 0.6
	8月20日	4.2	7.2	▲ 3.0
	9月20日		5.9	
	成熟期		5.7	
着莢数 (個/株)	8月20日	75	83	▲ 8
	9月20日		73	
	成熟期		73	
子実重	(kg/10a)		421	
同上	平年比 (%)		100	
百粒重	(g)		37.6	
屑粒率	(%)		3.6	
検査等級	(等)		3上	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成20年、22年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。



5) 小 豆： やや不良

6月20日現在：良

事由：播種期は平年より2日早い5月22日であった。出芽期は6月5日で平年より4日早かったが、播種後の高温と少雨により出芽は不ぞろいであった。6月上旬に著しい高温、乾燥となったが、6月中旬には連続した降水があったため、主茎長、本葉数とも平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

7月20日現在：良

事由：高温、少雨に経過したが、要所でまとまった降水があったため、分枝数はやや少ないものの、主茎長、本葉数とも平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「良」である。

8月20日現在：やや不良

事由：開花期は平年並であった。主茎長はほぼ平年並で、本葉数は平年よりやや少ない。分枝数、着莢数も平年よりやや少ない。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

表6 8月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.22	5.24	△ 2
出芽期	(月.日)	6.05	6.09	△ 4
開花期	(月.日)	7.21	7.21	0
成熟期	(月.日)		9.3	
主茎長 (cm)	6月20日	6.5	4.8	1.7
	7月20日	44.2	36.5	7.7
	8月20日	70.2	68.7	1.5
	成熟期		74.0	
本葉数 (枚)	6月20日	2.3	1.3	1.0
	7月20日	11.4	9.7	1.7
	8月20日	12.5	13.3	▲ 0.8
主茎節数 (節)	成熟期		15.2	
分枝数 (本/株)	7月20日	5.7	6.1	▲ 0.4
	8月20日	5.3	5.7	▲ 0.4
	成熟期		5.2	
着莢数 (個/株)	8月20日	51.3	56.2	▲ 4.9
	成熟期		56.0	
子実重	(kg/10a)		308	
同上	平年比 (%)		100	
百粒重	(g)		12.4	
屑粒率	(%)		3.4	
検査等級	(等)		3下	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、平成20年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ： やや良

5月20日現在

植付けは、平年（5月11日）より3日早い5月8日に行った。

6月20日現在： やや良

事由：植付けは平年より3日早かったが、5月第4半旬から第5半旬にかけて低温に経過したため、萌芽期は平年より1日遅かった。5月第6半旬から6月上旬にかけての記録的な猛暑により初期生育は早く、さらに6月9日以降の連続した降雨と少照により茎の伸長が徒長気味に進み、茎長は平年より8.9cm長い。したがって、目下の作況は「やや良」である。

7月20日現在： やや良

事由：開花始は平年より1日早かった。高温・少雨による茎葉の萎れ、倒伏が急速に進みつつあり、少雨による早期枯凋が懸念される。しかし、茎長は平年より大きく上回り、上いもは一個重が平年より6g重く、上いも収量は平年より約1割多く、でん粉価も平年より2.3ポイント高い。したがって、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在： やや良

事由：7月下旬から8月上旬にかけて十分な降水量があったため、塊茎の肥大が促進され、上いも平均一個重は平年より11g重く、上いも収量も平年を上回っている。しかし、でん粉価は多量の降雨により低下し、平年より1.0ポイント低い。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表7. 8月20日のばれいしょの生育

品 種 名		男爵薯		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
植付期	(月.日)	5.08	5.11	△ 3
萌芽期	(月.日)	5.29	5.28	1
開花始	(月.日)	6.22	6.23	△ 1
枯凋期	(月.日)		8.31	
茎長 (cm)	6月20日	43.2	34.3	8.9
	7月20日	55.9	46.0	9.9
上いも数 (個/株)	7月20日	9.8	9.6	0.2
	8月20日	10.3	11.3	▲ 1.0
上いも平均 一個重 (g)	7月20日	81	75	6
	8月20日	106	95	11
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	3496	3165	331
	8月20日	4886	4686	200
でん粉価 (%)	7月20日	15.8	13.5	2.3
	8月20日	14.4	15.4	▲ 1.0
収 穫 期	上いも数 (個/株)		11.1	
	上いも平均一個重(g)		96	
	上いも収量 (kg/10a)		4650	
	同上平年比 (%)		100	
	中以上いも収量(kg/10a)		4059	
	同上平年比 (%)		100	
	規格内いも収量(kg/10a)		3887	
	同上平年比 (%)		100	
	でん粉価 (%)		15.3	

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。